

水前寺・立田山断層調査の進捗状況について

1 調査の目的等

(1) 調査の目的

平成28年熊本地震後の調査により、新たに水前寺断層が活断層として確認され、また、推定活断層とされていた立田山断層の一部が活断層と認定された。これらは、熊本市街地を通過していると考えられ、本市に大きな影響を及ぼす恐れがある。

このことから、水前寺断層および立田山断層について調査し、熊本市地域防災計画の見直し等、本市の防災に資することを目的とする。

(2) 調査の態勢

- ・ 水前寺・立田山断層調査検討委員会を設置（添付資料参照）
- ・ 調査業務は、入札により委託業者を選定

(3) 調査スケジュール

令和3年度の1年間（添付資料参照）

2 調査の状況

(1) 調査済み

○ トレンチ(ピット)調査により水前寺断層の地層のずれ(約1メートル)を直接確認した。（添付資料参照）

- ・ 熊本地震以前に活動があったことが判明した。
- ・ 一度に動いたのか、小さい動きが累積したのか、活動時期、周期等については、未判明。

(2) 調査継続中

- 反射法探査、ボーリング調査、年代測定により上記調査を深化(実施中)。
- 文献調査、既存ボーリング資料の収集・整理、地形判読により、断層の全体像を把握（実施中）。

3 今後の対応

(1) 調査結果の取りまとめ

(2) 調査結果の活用

- ・ 地域防災計画への反映
- ・ 市民への周知

(3) 更なる調査についての検討

- ・ 国、県への調査の要望の要否、市として更なる調査の要否の検討

水前寺・立田山断層調査検討委員会

(R4. 2. 1 現在)

委員長	遠田 晋次	東北大学 災害科学国際研究所 教授
委員	松本 聡	九州大学大学院 理学研究院 教授
	後藤 秀昭	広島大学大学院 人間社会科学研究科 准教授
	鳥井 真之	熊本大学 くまもと水循環・減災研究教育センター 特任准教授
	宮下 由香里	国立研究開発法人 産業技術総合研究所 地質調査総合センター 研究戦略部 連携推進室長

調査スケジュール

6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
6/28 第1回委員会 (調査の方針等)		10/7 第2回委員会 (調査要領等)			12/23 第3回委員会 (分析等)		3/16 第4回委員会 (総括等)		
7/21 入札 (受託業者決定)		文献調査、既存資料の収集・整理、地形判読						取り ま と め	
		トレンチ		ボーリング*					
		反射法 探査		年代測定*					

トレンチ（ピット）調査の状況



※トレンチ調査とは、地面を立方体状に掘削し、地層を直接観察する調査であり、そのうち、小規模のものをピット調査と称している。

今回は、幅3m、長さ10m、深さ3mを掘削し、地層のずれを確認した。